

中日ドラゴンズ 2018年シーズン 終盤(2018年9月11日時点) 一軍登録選手

先発	左	ガルシア	【エース】 チームの勝ち頭。四球が多く球数が多くなりがちだが、要所で三振を奪う、闘志溢れる選手。
先発	右	吉見 一起	制球力と粘り強さで抑える粘りの投球が持ち味。大きく崩れることは少なく、安定感がある。
先発	左	笠原 祥太郎	シーズン後半に復活した2年目左腕。切れのあるストレートとチェンジアップで広島相手に完封も。
先発	右	藤嶋 健人	リリーフから先発へ抜擢。コンパクトなフォームからスプリット、カーブを駆使用する。強い気持ち投球にも反映される。
先発	右	小熊 凌祐	後半から先発ローテへ。以前より増した球威と制球で、完成度が高い。滅多に笑顔を見せないクールな選手。
リリーフ	右	祖父江 大輔	【セットアッパー】 シーズンを通して安定感があるリリーフ。主に8回を任せられ、精度の高いスライダーと迫真顔が武器。
リリーフ	左	岩瀬 仁紀	ピンチでも期待してしまう頼れるレジェンド左腕。逃げる投球はしないが、打たれるときは打たれる。
リリーフ	右	佐藤 優	【守護神】 今季途中より覚醒した抑え候補。低めに集める球威のある直球で三振も奪える。メンタルに課題。
リリーフ	右	福谷 浩司	抑えを任せられたこともある速球派。150キロに迫る直球が武器だが、制球とメンタルにやや難あり。
リリーフ	左	ロドリゲス	150キロに迫る直球が魅力。変化球の精度が悪いが、開き直ったときにストレートで押し付けていけるのは魅力。
リリーフ	右	山本 拓実	1年目の高卒ルーキー。小柄ながらしっかり腕を振る低めのストレートが売り。初の一軍マウンドに注目。
リリーフ	右	又吉 克樹	今季は安定感が無く、先頭打者を出す確率が高い。追い込んでから抑えられる球がないせいか、結果が出ず。
リリーフ	右	浅尾 拓也	【敗戦処理】 引き分け・ビハインド時中心に起用されることが多い。好投することも多く、いまだに人気がある選手。
捕手	左	松井 雅人	【捕手】 ほぼ正捕手の座を勝ち取った守りの要。課題だった打撃も上向いており、意外性のある打撃が魅力。
捕手	右	大野 奨太	FAで加入したものの、期待したほどの成績は出ず。ただし松井雅人と良い競争関係が出来ている。
捕手	右	武山 真吾	第3の捕手枠。相性の良い投手も多く、リード面で捕手陣を引っ張る。細かいミスや打撃が課題。
内野	左	京田 陽太	【遊撃手】 悩める2年目の新人王。シーズン序盤よりも打撃は上向きになっており、ショートで出場し続けるタフさは魅力。
内野	右	ビシエド	【一塁手】 首位打者も視野に入れるファースト。ややミート寄りの打撃で、チャンスで確実にランナーを帰す頼れる4番。
内野	右	福田 永将	【三塁手】 長打と堅実なサード守備が魅力の大砲。ポール球の変化球を空振りすることが多く、メンタルにも課題。
内野	左	高橋 周平	【二塁手】 成長著しい期待のセカンド。コンバートされながらも並以上の守備を見せる。打撃もチャンスに強くなった。
内野	左	亀澤 恭平	【代打の切り札】 代打の切り込み隊長。先頭打者での出塁率が高く、後半の攻撃の基点になることが多いムードメーカー。
内野	右	堂上 直倫	【守備固め】 終盤の守備固め要員としてベンチに控える。右の代打としては物足りなく、もう少し武器が欲しいところ。
内野	右	荒木 雅博	右の代打やセカンドの守備固めとして控えるベテラン。走力も衰えが見えず、代走としても存在感がある。
外野	左	大島 洋平	【中堅】 広い守備範囲と俊足が売りのセンター。上位打線ならどこでも機能する。シーズン後半、調子も上向きに。
外野	右	平田 良介	【右翼】 1番に抜擢され打ち始めた首位打者候補。本塁打数こそ少ないが、打撃・守備・走塁すべてハイレベル。
外野	両	アルモンテ	【左翼】 シーズン序盤に打ちまくったあと調子を落としたが持ち直す。3割をキープするポイントゲッター。
外野	両	藤井 淳司	代打・代走・守備固め・スタメン代役と使い勝手の良い第4の外野手。打撃はもう少し確実性が欲しい。
外野	左	工藤 隆人	【守備固め】 主に後半、アルモンテの守備固めや代走でよく出る。打つ方はあまり期待できないが、淡々と仕事をする職人。